

アルゼンティン国  
サンロケ病院消化器病診断・研究センター  
プロジェクト計画打合せ専門家チーム報告書

昭和62年8月

国際協力事業団  
医療協力部

医 協
J R
87 - 45

LIBRARY

国際協力事業団

18170

JICA LIBRARY



1067892[8]

18170



## は じ め に

アルゼンティン国コルドバ州にある、州立サンロケ病院に対する消化器病診断・研究センタープロジェクトは、昭和60年1月9日にR/Dが署名され、60年4月1日から技術協力がスタートし、65年3月31日までの5か年間の技術協力を行うこととなった。

本技術協力は、アルゼンティンの内陸部にあるコルドバ州の医療技術水準の向上に資することを目的として開始された。技術協力の具体的な内容としては、有病率の高いと考えられている胃腸疾患の診断・治療に焦点を絞って実施している。今回の専門家チームは本プロジェクトが3年目にさしかかった段階で、これまでの技術協力の実績を調査し、今後の計画を立てるために派遣されたものである。

派遣に当ってご協力いただいた関係機関並びに参加された各位のご苦勞に対し深甚なる謝意を表するものである。

昭和62年2月

国際協力事業団

理事 末 永 昌 介



# 目 次

はじめに

I 調査団派遣の経緯及び目的 .....	1
II 調査団の構成及び日程 .....	1
1. 調査団の構成 .....	1
2. 日 程 .....	2
III 面会者及び関係者一覧 .....	4
IV 調査の結果 .....	5
1. 昭和62年度協力計画 .....	5
2. 昭和63、64年度協力計画 .....	6
3. 本プロジェクトの問題点と要望事項 .....	11
資料 1. ミニッツ .....	17
2. IBMパソコン見積書 .....	25
3. サンロケ病院死亡統計（'76 - '85） .....	26
4. 診療圏調査 .....	27
5. 内視鏡、大腸鏡、直腸鏡検査結果 .....	28
6. 月別超音波診断結果 .....	31



## I 調査団派遣の経緯及び目的

アルゼンティンの内陸にあるコルドバ州の州立サンロケ病院に対する消化器病診断・研究センタープロジェクトは、昭和60年1月9日山口大学竹本忠良教授を団長とする実施協議調査団により、R/Dの署名交換が行なわれ、同年4月1日からプロジェクトが開始された。

本プロジェクトの目的は、アルゼンティンの国民に比較的有病率の高いとみられる胃腸疾患に対する診断・治療技術の協力をを行い、アルゼンティンの医療技術の向上を図り、国民の健康の保持増進に資することを目的として開始された。

本プロジェクトの開始と同時にアルゼンティン側は独自にサンロケ病院の増改築を行い、消化器病専門の診断・研究部門を独立させて「消化器病診断・研究センター」として61年9月24日に開所式を行った。このセンター内に日本から供与した内視鏡、超音波診断装置、X線診断装置等の医療機械が据えつけられて本格的な活動が進められている。

また、研修員の受け入れ、専門家の派遣も実施されており、技術協力が着実に進展してきている。

以上の背景をふまえて、本プロジェクトが3年目に入っている中間段階において、今回これまでの実績の調査並びに評価を行ない、65年3月31日までの今後の本プロジェクトの計画策定を行うことを目的として計画打合せ調査団を派遣したものである。

## II 調査団の構成及び日程

### 1. 調査団の構成

団長	竹本忠良	山口大学医学部第一内科教授
団員	長廻紘	東京女子医科大学附属消化器病センター講師
〃	小畑美知夫	国際協力事業団医療協力部長

2. 日 程

月 日	曜日	時 間	活 動 状 況	備 考
8月1日	土	16:20 15:45 20:00	東京発(小畑) ニューヨーク着 ニューヨーク発(小畑)	J L 008 RG 861
2日	日	8:20	サンパウロ着	
3日	月	20:50 8:10 10:15	東京発(竹本、長廻) リオデジャネイロ着 リオデジャネイロ発(竹本、長廻)	J L 064 PA 201
4日	火	13:20 14:15 15:00 16:00 20:00	ブエノスアイレス到着 サンパウロ発 10:30(小畑) ブエノスアイレス到着 シェラトンホテル チェックイン JICA表敬・打合せ JICA所長主催夕食会	SC 932 福田所長
5日	水	10:00 11:30 13:25 14:00 15:00	ホテルチェックアウト ブエノスアイレス発 (アエロパルク空港) コルドバ着 ホテルクリジョン チェックイン サンロケ病院にて病院長表敬	AR522 Dr. L. Conde
6日	木	9:00-16:00	サンロケ病院にてプロジェクト計画打合せ	
7日	金	10:00 ~ 11:00 ~ 13:00-15:00 15:00 ~ 20:30 ~	保健大臣表敬、MINUTES 署名 国立コルドバ大学にて竹本教授名誉 教授授与式及び記念講演 テーマ Avancus Recimco en la Endoscopia Diesciva 副知事表敬及び州知事宅にて州政府レセ プション プロジェクト計画打ち合せ 帰国研修員との懇談会	Dr. C. Beretta. 副知事 Dr. E. Grosso.
8日	土		資料整理	
9日	日	20:30 ~		Dr. Higa 宅にて夕食会

月 日	曜日	時 間	活 動 状 況	備 考
8月10日	月	9:00-11:00	サンロケ病院にて講演(竹本・長廻) テーマ: Problem of Gastrointestinal Endoscopic Biopsy (竹本) : Depressed Type Early Colonic Cancer (長廻)	
		20:00	JICA調査団主催レセプション	ホテルクリジョン
11日	火	9:00-11:00	州厚生省にて講演(小畑) テーマ: Los Apocryfos de JICA progreso de la medicina en los países en vías de desarrollo en las últimas dos décadas	
		13:15	コルドバ発	AU405
		14:20	ブエノスアイレス着	
		16:20	大使館挨拶(小畑)	高木参事官
		15:00	パンアメリカンホテル(竹本・長廻)	
		22:15	ブエノスアイレス発(小畑) 東京着 (13日 16:15分)	EA010
12日	水	午前	病院見学(In Hospital Nacional de Gastroenterología)	ウダオンド病院
		18:30	Academia Nacional de Medicina にて講演(Anla Magna) テーマ: Avances Recientes en la Endoscopia Digestiva (竹本) : Cancer Temprano de Colon en Tipo Depnrimido(長廻)	
13日	木	10:00	病院見学(In Hospital Fernandes)	
14日	金	午前	大使館報告 JICA報告	
		18:00	ブエノスアイレス発(竹本・長廻)	RG 911
		20:50	リオデジャネイロ着	
		23:55	リオデジャネイロ発	J L 063
15日	土			
16日	日	13:15	東京着	

### III 面会者及び関係者一覧

所属・地位	名	簿
コルドバ州 副知事	Dr. E. Grosso	Vice gobernador de Cordoba.
“ 保健大臣	Dr. C. Beretta	Ministro de Salud
コルドバ市 保健局長	Dr. O. Borrini	Ministro de Salud de la Municipalidad de Cordoba.
コルドバ 銀行頭取	Lic. O. Barwich	Presidente del Banco de Cordoba.
国立コルドバ大学 副学長	Arq. L. Liarte	Presidente de Arquitectura.
“ 医学部長	Dr. M. Staricco	Vice rector de la Universidad Nacional de Cordoba.
“ 医学部	Dr. A. Eynard	Director de Departamento Egresados de la Facultad Medicina
コルドバ州 知事秘書	Dr. G. Schroeder	Decano de Facultad de Medicina
“ 保健省次官	Dr. M. Illia	Secretario General de La Gobernacion.
保健省 関係者	Dr. A. Rahal	Secretaria Ministerio de Salud de Provincia de Cordoba.
	Dr. G. Monayar	“
	Dr. P. Igarzabal	“
	Dr. M. Capra	“
	Dr. Aizpurua	“
	Dra. Scolaro	“
サンロケ病院 院長	Dr. E. Actis	“
“ センター所長	Dr. L. Conde	Director Hospital San Roque.
“ センター副所長	Dr. A. Higa	Jefe dal Centro de Endoscopia.
Dr. J. Campra	Sub-jefe	“
JICAアルゼンティン事務所		
所長	福田 正 記	
業務一課長	富 田 実	
職員	古 屋 年 章	
在アルゼンティン日本大使館		
参事官	高 木 南海雄	
副領事	三 輪 能 弘	

## IV 調査の結果

### 1. 昭和62年度協力計画

#### (1) 研修員の受け入れ計画

##### ア 病理

Dr. Doradero Martin (6月29日～10月28日)

##### イ 超音波診断学

Dr. Norma M. Moroni (8月24日～12月22日)

##### ウ 放射線診断学

Dr. R. L. Videlaを予定しており、A2-3様式は提出済みである。

研修内容はX線診断、超音波診断、研修機関としては、順天堂大学、山口大学、順天堂大学の順に研修を行う。

#### (2) 機材供与計画

昭和62年度供与機材については、日本国内調達分を輸送費を含めて63,000千円を予定している。一方アルゼンティン側が現地調達予定としてスウェーデン製の消化管の Motility measurement system を計画している。これについての金額の見積書は入手できなかった。

またアルゼンティン側としては、外国製品を輸入すると100%関税がかかることと、もし日本製で同様の機器があれば、スウェーデン製品にはこだわらないということで、長廻団員が帰国後、調査・検討するということにした。

さらに、全体の予算がオーバーした場合についてのプライオリティについては、日本国内調達分の 2) Automatic Ultracentrifuge (11,602千円)を削ってもよいという返事を得た。

#### (3) 専門家派遣計画

ア. 内視鏡 山口大 富士 匡 (7月1日～7月30日)

イ. 超音波診断 自治医大 山中 夫 (9月4日～10月2日)

ウ. 病 理 順天堂大 桑原 紀之 (6月6日～6月21日)

エ. 放射線医学 ”

オ. 放射線技師 ”

エ. 放射線医学とオ. 放射線技師については、同時に出発し、医師は3週間滞在し、放射線技師は2カ月間の協力を行うことで了解。

なお、放射線医学については、順天堂大学片山仁教授に人選を依頼することとしている。

アルゼンティン側の希望は12月はできれば避けてもらいたいこと。もし12月以前が不可なら88年1月以後にてもらいたいということである。

#### (4) その他

##### ア. パンフレットの問題

病院から作成の案、見積を提出してもらいたいこと。

それによってJICAとしては検討し、できるだけいいものを作るよう努力することを約した。

##### イ. パーソナルコンピューターについて

機材供与の中にコンピューターが入らないかどうか。

コンピューターに患者答録などデータのインプットを考えている。

現在考えているのは、IBMの機種で\$ 27,000である。

これについては帰って検討することを約した。(添付資料2)

## 2. 昭和63.64年度協力計画

日本、アルゼンティン両国において、昭和60年4月末に本プロジェクトがスタートして以来の実績についての資料に基づいて調査を行い、双方の討議がなされ、更に必要な資料については追加提出を求めた。また昭和61年9月に開所した消化器病診断・研究センターの施設の視察、および日本から供与した医療機材の調査を行った。

この結果双方合意した事項についてミニッツを作成し8月7日午前10時から保健大臣立合いの下で竹本団長とコンデ院長との間で署名の交換を行った。

昭和63.64年度協力の中で特に問題になったことは、機材供与の件である。

即ちアルゼンティン側は、63年度分としてEcho-endoscopyを優先させることを主張したが、日本側は本機材が日本国内でも未だ評価が定まっていないこと、この種の機材は日進月歩で進歩するので、もう少し模様をみた方がいいことなどの理由からVideo-endoscopyを優先させることを主張し、アルゼンティン側もこれを了承した。

なお、予算等の都合で機材供与計画の変更もあり得ることを口答で伝えた。

(資料1 ミニッツ)

60, 61, 62 年度実績

項目	60年度												61年度												62年度											
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
専門家の派遣	リーダー 調整員 内視鏡 超音波診断 放射線医学 放射線技師 臨床検査 病理 建物・機材 ↳長廻 ↳田中 ↳富士 ↳山中 ↳喜納 ↳桑原 ↳川北 ↳桑原 ↳長廻 ↳山中 ↳長廻 ↳桑原																																			
カウンターパート	菅 理 L. Conde 内 射 A. L. Higa 鏡 鏡 超音波診断 J. L. Campra 診断 診断 病理 病理 R. O. Leguizamon 放射線 放射線 N. Navarro Moroni Norma Miriam Doradero Martin Ricand L. Videla																																			
調査団	60年度なし												61年度なし												計画打合せ ↳竹本、長廻 小畑											
機材供与	9100万円												5500万円												(7000万円)											
各種事業	9/24 センター開所式																																			
各種事業	パンフレット作成																																			

注 62年度については一部予定を含む

63, 64 年度協力計画

項目	63年度												64年度																							
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3												
専門家の派遣	リーダー 内視鏡 超音波診断 病理																																			
カウンターパート	内視鏡 超音波診断(腹部) 病理(免疫) 内視鏡																																			
調査団	評価チーム																																			
機材供与	Video-Endoscope												①Echo-Endoscope ②Microwave Equipment for Treatment of GI Tumor ③Spare parts and etc.																							
各種事業																																				

60, 61 年度機材供与済リスト

・ 60 年度供与機材

1) X線装置関係

2) 超音波診断装置関係

品名及び仕様	メーカー名	数量	品名及び仕様	メーカー名	数量
一般撮影用X線装置 (構成)	KXO-850	1式	複合電子走査形超音波診断装置 (構成)	SSA-90A	1式
高電圧発生装置	KXO-850	1	腹合電子走査形超音波診断装置	SSA-90A	(1)
1) 高圧発生器	DG-850 B	(1)	1) 本体(プラロイド撮影装置付)	PLE-308M	(1)
2) 高圧制御器	DO-850 B	(1)	2) コンベックス	PSE-37L	(1)
(DT-20A, CNI-02 A組込み)			3) セクタ電子スキャンプローブ	FS-90 A	(1)
X線管球	DRX-2903HD	1	4) アクセサリー	VF-60A-2	1
三倍回転スターター	RS-118A	1	フットスイッチ		1
天井走行式X線管球支持器	DS-PB-5	1	50MHZ リニア電子高解像プローブ		1
多重絞り	TF-6TL	1	ビデオフリーズユニット		1
ブッキーテーブル	DT-BTF	1	スペアパーツ(2年分)		1
立位ブッキースタンド(自立形)	VBS-01A	1	VTRユニット	HR-2650	1
スペアX線管球	DRX-2903HD	1	マルチフォーマットカメラ	MX-40 AF	1
スペアパーツ(2年分)		1			
天井補強チャンネルユニット		1	超音波装置関連附属品 (内訳)		1式
			超音波ゼリー(4ℓ入)		10
X線関連附属品 (内訳)		1式	ポラロイドフィルム(16枚入り)	T-667	50
低吸収カセット35×43cm(増感紙ES付)		3	VTRテープ		20
低吸収カセット35×35cm(増感紙ES付)		3	マルチカメラ用フィルム(100枚入)	六切	20
低吸収カセット24×30cm(増感紙ES付)		5			
低吸収カセット18×24cm(増感紙ES付)		3			
アルミ胸測計		1			
フィルムマーク 英字		1			
フィルムマーク 数字		1			
シャーカステン卓上形 35×43cm 3枚掛け		2			
” 35×35cm 4枚掛け		2			
防護前掛		6			
防護手袋 0.35mm Pb, 500m長	LB-6	3			
カセット転送箱 B型 1.5mm Pb		2			
フィルム保存箱 12打入		2			
含鉛ゴム布 60×75cm		1			
ハイラップ		1			
60分卓上分時計	N-66	1			
フィルムハンガー 35×43cm		5			
” 35×35cm		5			
” 24×30cm		5			
” 18×24cm		5			
フィルムハンガー架 30枚掛け		1			
ポリエチレン貯蔵ビン, 茶色, 5リッター		3			
” , 白色, ”		3			
恒温現象槽	TX-752	1			
遮光換気扇 10インチ	N-118 B	2			
コーナーカッター O型	N-70	1			
X線フィルム自動現像機 (内訳)	FRM-4000	1式			
富士Xレイプロセサー	FRM-4000	1			
オートフィーダー	FSM-430 DR	1			
専用架台		1			

3) 内視鏡関係

品名及び仕様	メーカー名	数量	品名及び仕様	メーカー名	数量
食道用斜視型 ESO-G2	光 機		ワニ口型生検鉗子 K2224C	光 機	3ケ
上部消化管用 UGI-F3	"	2台	バスケット型回収鉗子 K1818B	"	3ケ
細絲上部消化管内 UGI-FP2	"	1台	" K2418B	"	3ケ
胃 用 STM-V2	"	1台	万能型パピロトミーナイフ N2020C-35	"	5ケ
十二指腸用 DUO-X2	"	1台	引型パピロトミーナイフ N172000A	"	5ケ
処置用十二指腸用 DUO-XL2	"	1台	半月型高周波スネアー E2224M	富士写真 光 機	5ケ
シグモイド用 SIG-ET	"	1台	六角型高周波スネアー E2224H	"	5ケ
処置用大腸・中間尺 COL-MT	"	1台	丸型止血具 G2418R	"	3ケ
教視鏡レクチャースコープ FL-100	"	2台	注射針 S2418C	"	5ケ
" FL-100U アダプターUA100S付	"	1台	標準型造影チューブ T1720Z	"	10ケ
専用高輝度光源装置 FLX-300A	"	4台	半先細型造影チューブ T1720T	"	10ケ
専用カメラ 35mm FG135	"	4台	食道静脈 硬化療法セット Model: 20G Model: 23G	TOP	10ケ 10ケ
防水型標準型腹腔鏡 LA-C30型 検査附属セット LA-EX型及び カメラアダプター FG16-AD付	町田製作所	1台	高周波電気凝固装置 構成: 1) Main body SSE3B-REM & E8003 Cart 1 set 2) E7507 Polyhesive II 25pcs 3) E2502 B Lectro switch 3 pcs 4) E1551 Disposable Blade 12 pcs 5) E1552 Disposable Needle 12 pcs 6) E2610-6 Lectrovac II 3 pcs 7) E2608-6 Lectrovac II 3 pcs	VALLEYLAB	1式
超小型カラービデオカメラ NISCO-F1型	"	1台			
アクセサリ					
標準型生検鉗子 K2412R	富士写真 光 機	5ケ			
" K2418R	"	20ケ			
" K2424R	"	10ケ			
ワニ口型生検鉗子 K2218C	"	3ケ			

品名及び仕様	メーカー名	数量	品名及び仕様	メーカー名	数量	
8) E0012 Dual Adaptor 1 pc	VALLEYLAB	10箱	スベアパーツ		5ヶ	
9) E2400 Holster 3 pcs			1) Output Power Transistor			4ヶ
10) E1552-6 Extension needle 2 pcs			2) Power Supply Transistor			1ヶ
消耗品			3) Fuse 8 AMP			1ヶ
1) E7507 Plyhesive II 50 pcs/box			4) Fuse 1, 5 AMP			1ヶ
2) E2502B Lectro switch (W/E1551 Blade) 10 pcs/box			5箱			
3) E1551 Blade Electrode 150 pcs/box			4箱			

・ 61年度分供与機材病理組織標本作成機器および顕微鏡

品名及び仕様	メーカー名	数量	品名及び仕様	メーカー名	数量
自動固定包埋装置 (Automatic Tissue Processor)	サクラ精機	1台	三眼顕微鏡 写真撮影装置付 (Microscope with Phtomicro- graphy Equipment)	オリンパス	1式
フリージングマイクローム (Freezing Microtome)	"	1台	臓器撮影台 (Intenstine Photographic Unit)	サクラ精機	1式
パラフィン伸展器 (Slide Warmer)	"	1台	ディスカッション顕微鏡 (Multi-viewing Microscope for five persons)	オリンパス	1式
大型滑走式マイクローム (Sliding Microtome for para- ffin)	松吉医科	1式			
パラフィン溶融装置 (Paraffin Heatig Jar)	タカシマ	1台			

### 3. 本プロジェクトの問題点と要望事項

本プロジェクトは、昭和60年4月に開始して以来、現在3年目に入ったところである。

本プロジェクトの所期の目的は消化器疾患の診断治療に対する技術協力を通じて、アルゼンティンの医療技術水準の向上を図り、ひいては広く「ア」国の国民の健康の保持増進に寄与することにある。

ところでアルゼンティン国民の消化器疾患の有病の実態を示す統計は手に入らなかったが、それに代るものとしてサンロケ病院の入院患者の死亡統計で推定することとする。

(資料3)

サンロケ病院死亡統計(1976~1985年累計)

診断名	部位別診断	構成割合%
心血管系疾患	1,064	41.9
消化器系 "	850	33.5
神経系 "	633	24.9
呼吸器系 "	505	19.9
泌尿器系 "	121	4.8
筋骨格系 "	216	8.5
内分泌系 "	129	5.1
血液系 "	86	3.4
不明	192	7.6
総数(人数)	2,540	100.0%

即ち1976年から1985年まで10年間の院内死亡統計によると、死亡総数2,540名であり、そのうちもっとも多いのが心血管系疾患で、約42%の割合を占め、次いで消化器系疾患が34%であり、第2位を占めている。

このことは、医療需要の中で消化器疾患のニーズが極めて高いことを示していると考えられる。

従って本プロジェクトが消化器系の診断・治療に目標を設定したことは、広くアルゼンティン国民のために裨益するものと評価できる。

また、特にわが国の医療技術の中でも世界的に優れている分野といわれている内視鏡、X線診断装置等の医療機器を駆使した消化器病の診断・治療に対して技術協力を行うことはきわめて当を得たプロジェクトデザインと考えられる。

以下、本プロジェクトの個々の要素について述べることとする。

(1) プロジェクトサイト

本プロジェクトスタートと同時に、アルゼンティン側はサンロケ病院の一部を改築して「消化器病診断・研究センター」として、独立したユニットを作った。

このセンターの中に日本からの供与機材はほぼ納まっている。見た感じでは全体的に小じんまりとしてよくまとまっているようであった。

一方、本体のサンロケ病院は1917年に建てられた病院で、建物も古く内部的な病院機能は可成り低下しているのではないかという印象であった。現在、病院内部のあちこちで改修工事が行なわれていた。

従って、新しくつぎ足したセンター内の日本から供与した各種医療機材がきわ立ってよく見え、在来の病院とのギャップが大き過ぎるといような複雑な印象を受けた。

(2) カウンターパートについて

プロジェクトを推進する上で欠かせないカウンターパートとして本プロジェクトでは、日系二世のDr. Higa がその中心になっており、組織上センターの長としての地位に立っている。かつて日本の国立ガンセンターで勉強されたこともあり、日本語もよく話し「ア」側と日本側の橋渡しの機能をもっている。この下にDr. Campra がおり、アメリカで勉強し、英語がよくできる人である。

アルゼンティンの公立病院の勤務医は、公的に支給される給与は非常に安いようで、勤務時間外は私立病院や自分の診療所での診療活動が公然と認められており、日本の公務員の場合とは異なっている。従って、専門分野での名声が高くなるにつれて、私的な診療活動も活発になってくるようであり、若干寂然としない面もある。

一方、プロジェクトの目的が相手国に対する技術移転を図ることであり、カウンターパートが、国内の各地の病院から要請を受けて技術指導や講演を行ったり、本センターが主催して行う内視鏡の診断技術の研修コースやシンポジウムについては、積極的に評価されるものである。

(3) センターを受診する患者実績について

センターにおける取扱い患者の動向については、ミニッツの添付資料にある通り、昭和61年10月以降の月別の患者数は月毎に増大する傾向にある。このセンターで取扱う患者は、直接本センターを訪れるもの、本院から紹介されてくるもの、外部の病院から紹介されてくるものが含まれているが、院長の言によれば「非常にセンターの評判が高くなって来て、遠くからも患者がくるようになった」という。そこでまず取扱い患者数の増加の状況をみると、

	人 員	
1986年10月	187	} 平均 222名
11	256	
12	223	

1987年 1月	155	}	平均 217名
2	215		
3	257		
4	281		
5	332	}	平均 340名
6	409		
7	446		

61年10月から診療が開始されたので、3カ月毎にまとめてみると、62年の第1四半期が217名、第2四半期が340名となっており、最近になって急激な患者の増加がみられ、7月になっても一層の増加傾向が続いている。

次に患者の診療圏が評判の高まりと共にどのような変化をしているかを調査した。開所後の時間が余り経過していないことと、資料が充分整備されていないため必ずしも真の姿かどうか問題はあるが、とり急ぎまとめさせたものである。

即ち、62年1月分の患者と同7月分の患者について、住所のプロット出来るものについて、コルドバ市内か、コルドバ州か、それ以外かについて分類させた。

(別添資料 4)

	市 内	州 内	州 外	計
1987年1月	142人 (89.9)	13 (8.2)	3 (1.9)	158 (100.0%)
1987年7月	260 (78.3)	66 (19.9)	6 (1.8)	332 (100.0%)

以上のようにまとめると、明らかに1月と7月では7月分において州の患者数が増えており、患者の診療圏の拡大状況がうかがえる。即ち院長の言う通り本センターが州内で可成り有名になって来ているものと考えられる。

なお、参考までに本センターを受診して内視鏡検査を受けた患者の主要な診断名を掲げておく。(添付資料 5)

1. 胃、十二指腸内視鏡(62年4, 5, 6, 7月 計536例分)

慢性胃炎	287例 (53.5%)
十二指腸胃炎	106" (19.7%)
びらん性胃炎	88" (16.4%)
食道炎	88" (16.4%)

胃潰瘍	66例	(12.0%)
十二指腸潰瘍	60 "	(11.1%)
胃 癌	20 "	( 3.1%)
正 常	37 "	( 4.9%)

2. 大腸鏡(同71例分)

ヘモロイド	13例	(18.3%)
ポリポージス	13 "	(18.3%)
憩 室	13 "	(18.3%)
正 常	12 "	(16.9%)
腸 癌	12 "	(16.9%)
腸潰瘍	8 "	(11.3%)

3. 直腸鏡(同39例分)

正 常	16例	(41.0%)
ヘモロイド	9 "	(23.0%)
ポリポージス	4 "	(10.0%)
癌	3 "	( 8.0%)

(4) 日本人専門家の派遣について

本プロジェクトの日本から派遣される専門家は数が少なく、しかも短期の専門家に限られている。

専門分野としては、内視鏡、超音波診断、病理学等が主であり、国内支援機関となっている山口大学、順天堂大学、自治医科大学、東京女子医科大学等から派遣されている。従って長期専門家やプロジェクト調整員が現地に滞在していないため、プロジェクトの実際上の運営も「ア」側にまかせている。このため勢いカウンターパートである日系二世のDr. Higaに全面的に依存している格好になっており、余り好ましい形態とはいえない。

しかし、日本から長期の専門家をリクルートすることは、国内の医療事情から考えて、大変困難であるといえよう。

アルゼンティン側としても、日本人専門家にもう少し長く滞在してもらいたいという希望をもっているが、日本の国内の事情もよく知っているので余り強くは言わないようである。

JICAとしては今後も国内支援機関の各先生方をお願いしてできるだけ長期専門家の確保を図るべきであると感じた。

(5) 研修員の受入れ

プロジェクト開始以来、病院管理、内視鏡、超音波診断、病理、放視線の各部門のカウンターパート8人が日本で研修を受けている。

今回滞在中に、日本で研修を受けたドクターによる夕食会を催してくれて、色々な話を聞く機会を得た。

研修員の評価としては、日本の医療技術の進歩、病院の建物の立派さ、等に強い印象をもっていたようであるが、技術面の研修ばかりでなく、日本の医療人の仕事に対する熱意、勤務態度なども大いに学ぶべき点があるということと話していた。また、日本で研修を受けることにより、日本を理解してもらい、親日的な友好関係を深めてもらうという効果も充分果していることを感じた。

ただし、スペイン語が中心であり、英語を話せるカウンターパートが少なく、意志の疎通を図るのに障害があるようである。

(6) 機材供与について

現在使用されているのは主として、内視鏡を中心とした機材と超音波診断装置、及び病理関係の機材である。これらの機材は到着以来何れも有効に使用されており、現在のところ特にトラブルも発生していない。

なお、X線関係の装置は現在据え付け中であった。

(7) その他

アルゼンティン側としては、今回のプロジェクトを通じて改めて日本の医療技術の水準の高さを再確認しており、次のプロジェクトの可能性について種々の質問を受けた。

ア) サンロケ病院の院長からは、自分の専門分野である循環器系疾患プロジェクトについて

イ) コルドバ州保健大臣からは、救急医療情報のネットワークシステムについて

ウ) コルドバ州保健省次官からは母子保健関係、特に新生児医療(NICU)についてなどである。



# 資 料





GOBIERNO DE CORDOBA  
Secretaría Ministerio de Salud

MINUTES OF THE MEETING ON THE TECHNICAL COOPERATION FOR  
THE PROJECT OF THE CENTER FOR ENDOSCOPY DIAGNOSIS AND  
RESEARCH IN GASTROENTEROLOGY - SAN ROQUE HOSPITAL

The Japanese Planning and Consultation Survey Team organized by the Japan International Cooperation Agency headed by Professor Dr. Tadayoshi Takemoto visited the Argentine Republic from August 3rd. to 16th., 1987, with the purpose of working out the details of the Technical Cooperation Programme from 1988 to 1989.

During its stay in the Argentine Republic, the team had a series of discussion with the Argentine authorities concerned, regarding activities and cooperation of the past three year's.

As a result of the discussions, both parties come to an agreement to carry out under the tentative implementation schedule as attached herewith.

Córdoba, August 7th., 1987.

PROF. DR. TADAYOSHI TAKEMOTO  
Head of the Japanese Planning  
and Consultation Survey Team  
J.I.C.A.

PROF. DR. LEOPOLDO H. CONDE  
Director of San Roque Hospital

DR. CESAR DELIO BERETTA  
Ministry of Health of the  
Province of Córdoba



GOBIERNO DE CORDOBA  
Secretaría Ministerio de Salud

1.-Mid-term evaluation for achievements of the Project for the past 3 (three) years:

In order to evaluate the achievements of the Project and the activities of the // Center, both teams examined the followings in each year of the past 3 years as / listed in Annex I.

2.-Tentative Programme for the implementation of the Gastroenterological Endoscopy Diagnosis and Research Center in the next 2 years.

Both teams accord to develop a program which includes the following items:

a.-Training of Argentine Personnel in Japan

FY. 1988

Endoscopy	1
Immunology	1
Total	2

FY. 1989

Abdominal Ultra Sound	1
Endoscopy	1
Total	2

b.- Dispatch of Japanese Experts to Argentina:

FY 1988

Abdominal Ultra Sound	1
Endoscopy	1
Immunology	1
Total	3

FY 1989

Endoscopy	1
Total	1

c.-Supply of medical instruments and equipment provided by J.I.C.A.

FY 1987 (pending)

- 1) Equipments for clinical laboratory (Item 2) is not included).
- 2) Equipment for esophagic gastric and colonic motility studies.
- 3) Computer System.

T.T.



GOBIERNO DE CORDOBA  
Secretaría Ministerio de Salud

Fy 1988

- 1) Video Endoscopy

Fy 1989

- 1) Echo Endoscopy
- 2) Microwave Equipment for treatment of GI tumors
- 3) Spare part and supplementary accessories.

d.-Additional activities of the Project in the future:

Issue of booklets or pamphlets with funds provided by J.I.C.A.

NOTE:

This programme is subject to changes by mutual agreement according to J.I.C.A.'s budget.

T.T.

*[Handwritten signature]*



GOBIERNO DE CORDOBA  
Secretaría Ministerio de Salud

ANNEX I / A

1. Construction of the building for the Center of Endoscopy , Diagnosis and Research in Gastroenterology- San Roque Hospital

Official Opening Ceremony : 24 th September of 1986.

2. Total number of Diagnostic and Therapeutic procedures carried out from the date of / opening of the Center up to the end of July.

a.- Upper GI-Endoscopies	1132
b.- Abdominal Ultrasound studies	1285
c.- Coronoscopies	174
d.- Fiber Rectosigmoidoscopies	108
e.- Polipectomies	21
f.-ERCP (ERCP)	31
g.-Laparoscopies	3
h.-Foreign Body Removals	1
i.-Esofageal Varixs Sclerotherapy	6
Total	2869
Monthly average of procedures	286

3. Teaching activities carried out from the date of inauguration of the Center:

a.-Fifth Theoretic and Practical Annual Course on Digestive Endoscopy

5th -7th. May 1986 / 60 Attendants. T.T.

b.-Symposium on Advances in Gastroenterology.

September 1986. / 150 Attendants.

c.-Refreshment Course on Digestive Endoscopy.

18th. - 20th. March 1987 / 50 Attendants

d.-Sixth Theoretical and Practical Annual Course on Digestive Endoscopy.

22th. - 24th. July 1987 / 60 Attendants

- 4.-Histopathological Examinations performed at the Center.

a.-Endoscopy Biopses

b.-Endoscopic Exfoliative Cytology

c.-Pathological Examinations of Surgical Specimens.



GOBIERNO DE CORDOBA  
Secretaría Ministerio de Salud

5.- Number of experts sent from Japan to Argentina

Fy. 1986

Pathology	2
Endoscopy	1

Fy 1987

Pathology	1
Endoscopy	2
Abdominal Ultrasound	1
Total	7

6.- Number of Argentinian physicians trained in Japan.

Fy 1985

Endoscopy	1
Endoscopy and Abdominal Ultrasound	1
Hospital Administration	1

Fy 1986

Radiology	1
Endoscopy	1
Pathology	1

Fy 1987

Radiology	1
Abdominal Ultrasound	1
Pathology	1
Total	9

7.7.

7.- Detail of Medical Equipment provided by J.I.C.A. up to date:

- a.- Ele-en fiberoscopes for Digestive Tract examinations.
- b.- One laparoscope.
- c.- Two X-Ray Equipments with accessories.
- d.- Two automatic film developers.
- e.- Four light sources
- f.- One Diathermia Unit.
- g.- Three teaching attachments.
- h.- One video Camera with monitor.
- i.- One Equipment for Abdominal Ultra Sound with seven US probes.
- j.- Microscopes and Equipment for processing pathological specimens and



GOBIERNO DE CORDOBA  
Secretaría Ministerio de Salud

teaching and photographic devices.

k.- Spare parts and multiple accesories.

CONCLUSION:

The representatives of both Governments agreed upon the performance in terms of the quality of assistencial services provided, the utilization of equipments installed at / various Departaments, performance of Argentine physicians involved in the project and the transference of technology which was carried out by Japanese Experts was found to be // highly satisfactory allowing the full achievement of the established objectives up to now.

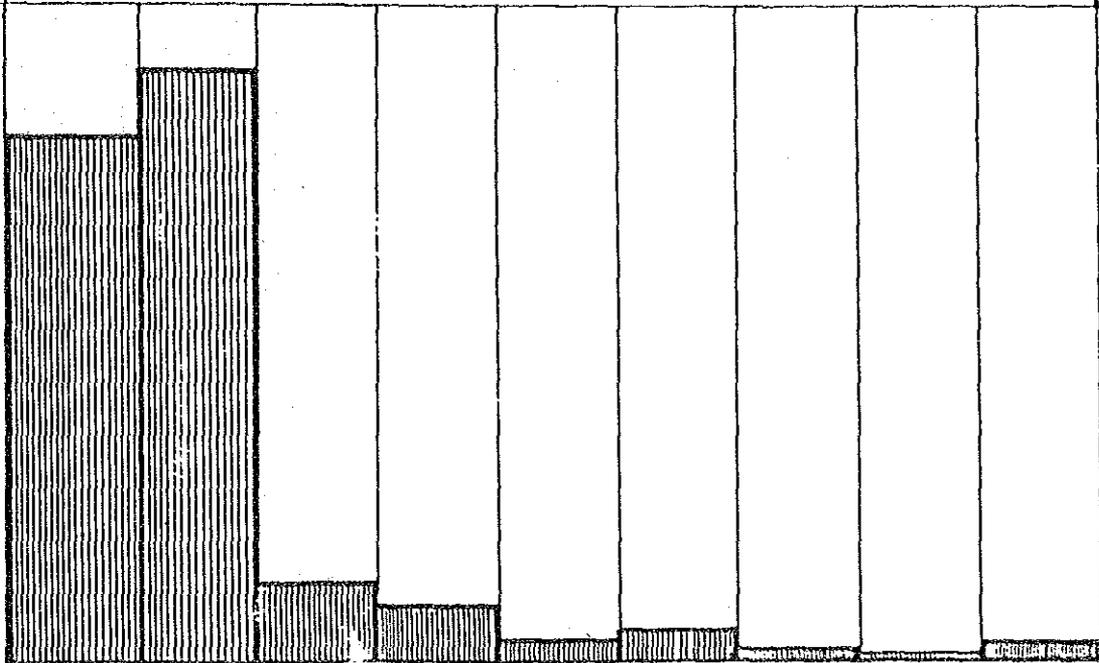
Both teams agreed upon that in the next two years other important objectives will be achieved, particularly the development of projects for clinical and epidemiological research, as well as by implementation of advanced techniques applicable to the diagnosis and treatment of gastroenterological diseases.

7.7

*em*

**ANNEX I / B**

MES	esófago caotro- duodeno	angiografías	colonos copias	recto sigmoide fibros. copias	polipec. lomías	colangio maratología la radiografía la enterografía	laparoscopia	extracción cuerpo extraneo	esclero. en de várices
octubre 1986	72	98	15	4	—	—	—	—	—
noviembre	107	116	30	—	3	—	—	—	—
diciembre	78	128	10	7	—	—	—	—	—
enero 1987	98	28	16	9	1	2	1	—	—
febrero	102	80	17	8	2	6	—	—	—
marzo	114	119	8	8	5	2	—	1	—
abril	118	125	19	17	4	—	—	—	—
mayo	156	115	15	17	1	—	—	—	—
junio	127	230	26	18	2 (colón S. colón)	—	—	—	3
Julio	160	220	20	20	—	16 5 (FAP. lotaria endosc.)	2	—	3
TOTAL (10 meses)	1152	1285	174	108	21	31	3	1	6
TOTAL GENERAL	2.869 procedimientos								
PROMEDIO MEHSUAL	286,9 procedimientos								



7.7.

*[Handwritten signature]*



GOBIERNO DE CORDOBA  
Secretaría Ministerio de Salud

MEMBER LIST

ARGENTINE TEAM

- |                          |  |
|--------------------------|--|
| 1. Dr. Leopoldo H. Conde | Medical Director of San Roque Hospital.  |
| 2. Dr. Antonio L. Higa   | Chief of the Center of Endoscopy Diagnosis and Research in Gastroenterology.     |
| 3. José L. Campa         | Deputy Chief of the Center Endoscopy Diagnosis and Research in Gastroenterology. |

JAPANESE TEAM

- |                             |   |
|-----------------------------|---|
| 1. Prof. Tadayoshi Takemoto | Head of the J.I.C.A. Team and Prof. of the University of Yamaguchi. |
| 2. Prof. Kou Nagasako       | Assistant Prof. of Tokio Women's Medical College.                   |
| 3. Dr. Michio Obata         | Director of Medical Cooperation Branch J.I.C.A.                     |
| 4. Mr. Toshiaki Furuya      | Staff member of J.I.C.A. Buenos Aires.                              |

*L*

*[Handwritten signature]*

*T.T.*


**BUROTICA S.A.**

ENTRE RIOS 75 - TEL. 45185 - 42432 - CORDOBA (C. P. 5000) - ARGENTINA

Córdoba, 3 de Julio de 1987.-

 Dres.  
 Campa y Higa  
 HOSPITAL SAN ROQUE  
 5000-Córdoba

## FACTURA PRO-FORMA

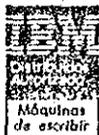
De nuestra mayor consideración.

 Tenemos el agrado de dirigirnos a Uds.,  
 con el fin de presentarles el presupuesto de acuerdo a lo solicitados  
 por Uds..

DESCRIPCION	PRECIO
Computador PC/36 5364-021 40 Mb en Disco DKT 5¼ de 1,2 Mb 1024 Kb de memoria	U\$S 12.276.-
Sistema Personal/2 IBM 8530-021 DKT 3,5 de 720 Kb 20 Mb en Disco 640 Kb de memoria Monitor Mono de alta Resolución DOS 3.3	U\$S 5.389.-
(DOS) Terminales 3196 AIS	U\$S 4.882.-
Printer Proprinter 132-200 4210	U\$S 3.041.-
Printer Proprinter 80-200 para PS/2 4201	U\$S 750.-
SOFTWARE:	
Sistema Operativo PC/36	U\$S 1.481.-
Utilitarios (Sort-DFU-SEU-SDA-WSU)	U\$S 342.-

PRECIO TOTAL.....U\$S 28.161.-

Estos precios no incluyen el Impuesto al Valor Agregado (IVA).-



TOTAL DE DIAGNOSTICOS DE PACIENTES FALLECIDOS SEGUN SISTEMAPERIODO DEL AÑO 1976 A 1985

病院の死亡統計

HOSPITAL SAN ROOUE - CORDOBA -

'76 ~85

TABLA Nº 3

DIAGNOSTICOS SEGUN SISTEMA	TOTAL
SISTEMA CARDIOVASCULAR CENTRAL Y PERIFERICO	1.064
SISTEMA DIGESTIVO            消化器	850
SISTEMA NERVIOSO CENTRAL Y PERIFERICO            神経系	633
SISTEMA RESPIRATORIO            肺	505
SISTEMA GENITO - URINARIO            泌尿	421
SISTEMA OSTEO-MUSCULAR Y TEJIDO CONJUNTIVO SUBCUTANEO            整形	216
SISTEMA ENDOCRINO            内分泌	129
SISTEMA LINFATICO Y HEMATOPOYETICO            白血病	86
DIAGNOSTICOS QUE OCUPAN VARIOS SISTEMAS O NO DEFINIDOS            不明	192
TOTAL DE DIAGNOSTICOS EN LOS 10 AÑOS	2.540

*Nelida Frigerio de Arias*  
 NELIDA FRIGERIO DE ARIAS  
 JEFA SECCION ESTADISTICA  
 HOSPITAL SAN ROOUE

診 療 圈 調 查

資料 4

PRECEDENCIA DE LOS PACIENTES ESTUDIADOS EN EL CENTRO DE ENDOSCOPIA,  
DIAGNOSTICO E INVESTIGACION EN GASTROENTEROLOGIA DEL HOSPITAL SAN ROQUE.

1月				
MES DE	ENERO	DE	1987	
FibroDuodenoscopia	86	9	2	
Ecografía	34	3	1	
Colonoscopia	9	-	-	
Fibro rectoscopia	13	1	-	
	142	13	3	Total
	(89.9%)	(8.2)	(1.9)	158 (100.0%)
7月				
MES DE	JULIO	DE	1987	

	CAPITAL	INTERIOR	OTRAS PROVINCIAS.	
Fibro duodenoscopias	89	27	3	
Ecografía	156	29	3	
Colonoscopia	15	10	-	
Laparoscopia	1	-	-	
E.R.C.P.	7	6	-	
Papilotomia	2	1	-	
Esclerosis de Várices	2	-	-	
	260	66	6	Total
	(78.3%)	(19.9)	(1.8)	332 (100.0%)

(1) Spinetoscopy Digestive Aetia

(April - mayo - junio - julio)  
4月 5月 6月 7月

Nº Total de caso 536

Gastritis Erosiva	287	53.5%
Duodenitis	106	19.7%
Gastr. Erosiva	88	16.4%
Esófagitis	88	16.4%
Úlcera Gástrica	65	12.0%
Úlcera Duodenal	60	11.1%
Esófago bucal	59	11.0%
Normales	(37)	(6.9%)
Varices Esofágicas	22	4.1%
Cáncer Gástrico	20	3.7%
Gastritis Hemorrágica	17	3.1%
Úlcera Esofágica	11	2%
Pólipos Gástricos	10	1.8%
Metaplasia Intest.	8	1.4%

Cáncer Esofágico	7	1.3%
Esóf. sub. Gástrico	6	1.1%
Metaplasia Intest.	5	0.9%
Gastritis Atrofica	3	0.5%
Gastritis Atrofica	5	0.9%
Pólipos Duodenal	3	0.5%
Esófago corto	1	0.1%
Pólipos Duodenal	1	0.1%
Angiomas Gástrico	1	0.1%
Acidiasia	1	0.1%

April - June - July 1987

4月 5月 6月 7月

(2) Colonoscopy

Total: 71

Hyperplastic - 13 -

Adenoma - 13 - 19.01%

Dysplastic - 13 -

Normal: 12 -

16.88%

Other polyps: 12 -

Total adenoma: 8 } 11.26%

Adenoma: 2

Adenoma with villi: 2 } 2.81%

Adenoma with villi: 2

(see lower left margin)

ポリトリトミー

Adenoma: 6 - 8.45%

Terminated Examination

Leptoglyphis: 1 -

Leptis: 1 -

1.39%

正常



1月

Total: 29

H.V.B. y P.: 22

Quirólogos: 6

Renal: 1

lio

(超音波診断)

Diagnósticos

- Hepatomegalia: 4
- Litiasis Vesicular: 8
- Obstrucción Via Biliar Extra: 7
- D. Ma. Delm. E. Litiasis: 2
- Pancreatitis aguda: 2
- Epilepsia: 4
- Colelitiasis ag: 1
- Hepatoesplenomegalia: 6
- Hipertensión Portal: 2
- Normal: 2
- Adenomatosis: 1
- Barr. Biliar: 1
- D. Ma. Bazo: 1
- D. Ma. Hígado: 1
- Esten. Transferrida: 2
- Abceso subhepático: 1

Echinococcus が多い

正常

% normal = (8%)

Cas de Febre de 1957

2月

Total . 78

1. V&P : 66

Quercuquicos : 11

Revol : 1

Diagnósticos

Litiasis Vesicular: 22

Hepatomegalia: 20

Hepatopatia Difusa: 10

Esplenomegalia: 10

Lesões Periféricas: 8

Normal: 9

Particulae Calcium Tuberosculas: 6

Dorres Biliar: 5

Hidronefros: 7

Obstrução de la Via Biliar Extra: 6

Hidronefros: 7

Ascler: 5

Síndrome Pleural Dorsal: 4

Pancreatopatia: 3

Lesões de Reitel: 2

Obstrução de la Via B. Int. Hepatica: 2

Plena Hepática: 1

Disenterias: 2

Spurrogone: 1

Colicadas Biliares: 1

Colicadas Agudas: 1

Pancreatitis Aguda: 1

Neoplasia de Hígado: 3

Alumoniomolisis: 11

% NORMAL = (15%)

Mes de Mayo 1987

Total: 119

3 H

Ginecológicas: 21

Renal: 2

HVF. Abdominal: 93

Diagnósticos

Litiasis Vesicular: 30

Dilatación Vía Biliar Ex: 5

Dilat. VB Ex. Litiasis: 8

Hepatosmegalia: 21

Hepatopatía Difusa: 17

otro: 6

Esplenomegalia: 13

Patología Causada Intravesicular: 4

Neoplasia de Hígado: 6

Adenocarcinomas: 13

Quiste Hepático: 3

Normal: 8

Colección Subhepática: 3

Pancreatitis Aguda: 2

operculación Portal: 3

Duplicación Vesicular: 1

Carcinomas Pancreol: 1

Hidronefrosis: 3

Atracoma Aorta: 1

Colecistitis Aguda: 2

Estenosis biliar: 4

Quiste Renal: 3

70 NORMAL (60%)

Nov de Abril 1987

4月

Coledal : 107

HVF. Abol : 93

Ginecológicos : 12

Renal : 2

Maguálicas

Hepatomegalia : 26

Litiasis vesicular : 42

Dilatación de VOEx. Litiasis coledociana : 13

Dilatación de VBEx : 4

Hidronefrosis : 8

Hepatopatia difusa : 11

Patología cagénica ultrasonica : 8

Splenomegalia : 10

Burno Biliar : 6

Neos de Hígado : 5

Normal : 6

Estudios ultrasonicos : 7

Hidromiomas : 5

Asc : 4

Quiste hepático : 1

Hipertensión Portal : 2

Traxo Abdominal : 1

Pancreatitis crónica : 1

Carcinomas Pancreas : 1

Pancreatopatia : 3

Cufoleucopatia : 1

Quiste de Riñón : 2

Neoplasia de Bazo : 1

Neoplasia de Riñón : 1

Neoplasia de Páncreas : 1

Obstrucción subhepática : 1

% normal (7%)

Bois de Bayo 1987

Total: 126

5月

HVP. Abul: 101

Gynecohegias: 23

Renal: 2

Diagnosticos

Lithiasis Vesicular: 41

Hepatomegalia: 29

Dilatation de VB Ex. Lithiasis calculosa: 21

Hipertrofia difusa: 13

Quiste Renal: 8

Colelitis Aguda: 3

Pancreatitis Aguda: 2

Normal: 10

Hipertrofia Portal: 4

Esplenomegalia: 7

Particula Ecogena ultrasonica: 6

Insuajome: 1

Pancreatopatia: 2

Barris bilias: 4

Adenomomolosis: 7

Estudio usopacite: 12

Nichronefrosis: 5

Neoplasmia de hígado: 3

Quiste hidatidico hepatico: 1

Aneurisma barto: 1

Absceso Orgo: 1

Absceso Pulmonar: 1

Neoplasmia de Vesicula: 1

Ascitis: 4

Derrame Pleural: 3

Absceso Hepatico: 4

% Normal = (7%)

Mes de junio 1987

6月

Total: 170

HVP - Abd: 125

Ginecológicas: 35

Renal: 10

Diagnósticos

Hepatomegalia: 33

Litiasis vesicular: 50

Dilatación de VBE - litiasis colédoco: 16

Hepatoesplenomegalia difusa: 8

Colicistitis crónica: 1

Dilatación de VBE: 11

Colicistitis aguda o subaguda: 8

Normal: 24

Hígado neoplásico: 10

Esplenomegalia: 7

Estudio superficial: 12

Partículas leucocitarias ultrasonicas: 12

Úlcera: 2

Hipertensión portal: 2

Pancreatitis crónica: 1

Adenomiomatosis: 7

Quiste de Bazo: 1

Neoplasia de Bazo: 1

Leucocitosis Reducida: 1

Absceso abdominal: 1

Hidronefrosis: 4

Quiste Riñón: 2

% normal (10%)

Ítes de Julio 1987  
7/11

Total: 180

Higado. Via Biliar y Páncreas 134

Genealógicos 40

Revolos: 6

Diagnósticos

Litiosis (Paniculosa): 50

Hepatomegalia: 37

Hepatopatia Difusa: 12

Cirrosis: 12

VBH dilatada: 11

Litiosis Colestociana: 11

Estados Simples: 8

Normal: 17

Adenomatosis: 8

Bazo Biliar: 3

Pancreas. Círculo Biliar: 8

Lesión de Vesícula: 2

Colicistitis Aguda: 1

Colicistitis Subaguda: 1

Lesión de Higado: 7

Arteria: 2

Pancreatitis Aguda: 1

Pancreatitis Crónica: 1

Hipertensión Portal: 2

Lesión de Riñón: 2

Neoplasias de Páncreas: 2

Bazo: 2

Suprarenal: 1

Lesión Hepática: 2

(Hígado)

70 normales (77%)

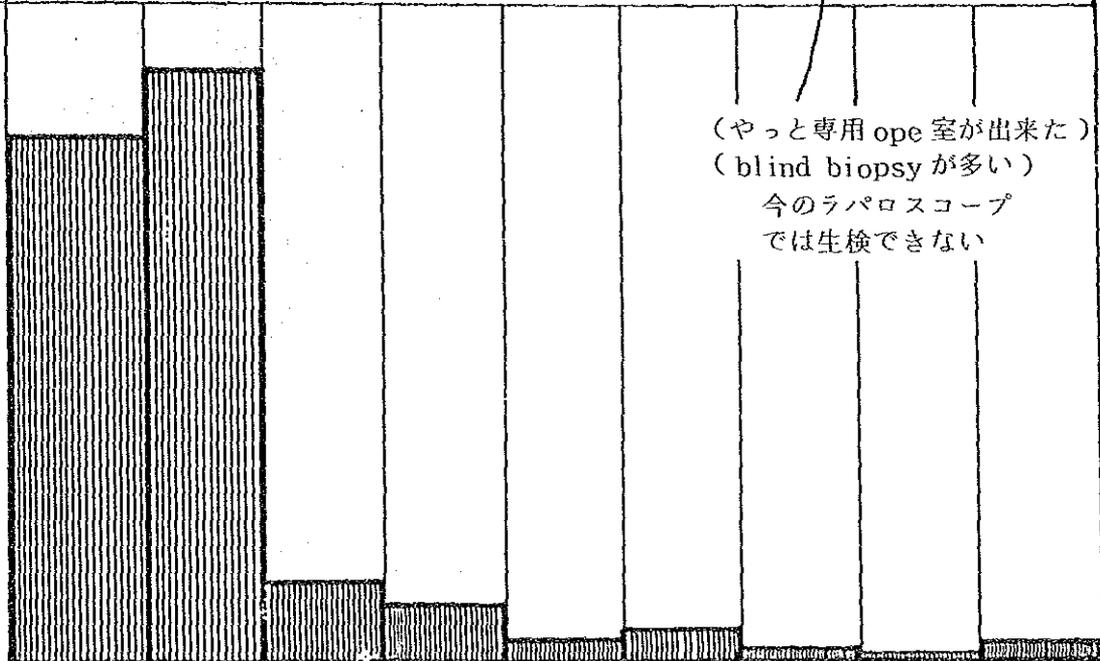


実績

ERCP

異物

MES	esófago caolro- duodeno	US ecografiás	colonos- copias	recto sigmoide fibros- copias	polipec. tomías	colangia pancreatología via retrógrada de endoscopia	laparoscopia	extracción cuerpo extraño	2360 esclero- sis de vdrices
octubre 1986	72	98	15	4	—	—	—	—	—
noviembre	107	116	30	—	3 colm	—	—	—	—
diciembre	78	128	20	7	—	—	—	—	—
enero 1987	98	28	16	9	1 1/2	2	①	—	—
febrero	102	80	17	8	2 1/2	6	—	—	—
marzo	114	119	8	8	5 1/2	2	—	1	—
abril	118	125	19	17	4 1/2	—	—	—	—
mayo	156	115	15	17	1 1/2	—	—	—	—
junio	127	230	26	18	2 (colón) 3 (estóm)	—	—	—	3
Julio	160	220	20	20	—	16 5 (1987) 1 (colonia endosc)	2	—	3
TOTAL (10 meses)	1132	1285	174	108	21	31	3	1	6
TOTAL GENERAL	2,869 procedimientos								
PROMEDIO MENSUAL	286,9 procedimientos								



(やっと専用 ope 室が出来た)  
(blind biopsy が多い)  
今のラパロスコープ  
では生検できない

医師・材料

評価、名声が高まったため検査数も増えている

→病院関係以外の一般患者も増えている

→ Dr. Higa 及び Dr. Campra も意欲をみせてきている。





JICA

